

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070801727
法人名	メディカル・ケア・サービス九州株式会社
事業所名	愛の家グループホーム管松
所在地	〒812-0067 福岡市東区管松新町3-3 (電話) 092-626-8030

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年7月3日	評価確定日	20年 8月 7日

【情報提供票より】 (平成20年 6 月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤 15人 非常勤 7人 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,750 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	875 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 6 月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医) 八木病院・医) おおつかクリニック・エンゼル歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

マンションや商店が建ち並び道路に面した場所に位置する平屋建ての事業所で、芝生や生垣、花のプランターに囲まれ和やかで暖かみのある雰囲気である。高い運営理念を掲げ、利用者主体のサービス提供や地域交流を重視した支援を、管理者や職員が一同となって心がけ実践している。「その人らしさ」を大切にという理念が日常生活やケアのなかに浸透している。利用者を取り巻く家族との関係作りにも力を入れ、家族会の活動も活発である。地域との交流も極めて自然体で活発に行われており、家族や地域住民から信頼されている様子が随所に伺える。医療機関とも密な連携を取り、重度化が進む中でも安心して過ごせる体制となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、全職員で話し合い問題点を明確にし、改善に向けた書式作成を行い、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で意見交換を行い取り組んでいる。前回の外部評価で十分にできていると評価された点においても、より何かできることはないかという視点で取り組みをしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に開催し、率直に意見や要望を言えるような関係作りを努めている。意見や要望は日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。会議録も作成し家族に郵送している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置し、家族の来訪時は意見や要望を気軽に表出できるような雰囲気作りや声かけを行っている。定期的に開催される家族会では活発な意見交換が行われ、家族の意見や要望を表明しやすい仕組みを作り上げている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所内に地域の集会所を併設し開放している。近隣の保育園・小学校・町内会と交流がある。地域の子ども会と合同で夏祭りを開催し、また地域に配布する広報誌を作成するなどの取り組みも行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「その人らしさ」「地域の人々とのふれあいを大切にする」等地域密着型の視点がある。また事業所の理念を具現化するために各ユニット毎にスタッフ間でつくりあげたユニット独自の理念もある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝礼時に唱和し、ミーティング時も議題に挙げるなど、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所内に地域の集会所を併設し開放している。近隣の保育園・小学校・町内会と交流がある。地域の子ども会と合同で夏祭りを開催し、また地域に配布する広報誌を作成するなどの取り組みも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で意見交換を行い取り組んでいる。また前回評価で見出された課題について全職員で話し合い、具体的に改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的を開催し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。そこで出された定期的なドライブへの家族の協力等の意見や要望は、日頃のケアや運営に反映されている。会議録も作成し家族に郵送している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携を密に取り、サービスに関する課題の話し合いを行い、課題解決に向けた協働を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について外部研修で学ぶ機会を設け、報告・伝達講習で共有化が図られている。テキスト・研修記録・報告書がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りを毎月発行し、利用者の暮らしぶり・行事の様子を知らせている。来訪時は必ず状況を報告し、緊急時等は電話・メール等で迅速な対応を行っている。金銭出納帳は家族の押印があり、毎月コピーを郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族の来訪時は意見や要望を気軽に表出できるような雰囲気作りや声かけを行っている。定期的に関催される家族会では活発な意見交換が行われ、家族の意見や要望を表明しやすい仕組みを作り上げている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として職員の異動はしないように努めている。離職の場合は、その後も気軽に訪問できるような関係作りに配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく高齢者に対する考え方を重視している。職員の能力や経験年数を考慮し、ユニット間でのバランスを取り勤務しやすいよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修は積極的に受講できるように配慮し、利用者・家族・職員全ての人権の尊重を重視している。伝達研修を必ず行っている。テキスト・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験に応じた研修に参加できるように管理者が配慮している。研修は外部研修・内部研修ともに報告書の作成を行い、全職員が研修内容を共有できるように、会議等で報告している。また中堅クラスの職員による勉強会を毎月開催している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、毎月行われる研修会に必ず参加している。他の事業所と相互に訪問・意見交換などを行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には、見学や職員による自宅訪問等を行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行っている。他の利用者にも声かけを依頼したり家族にも毎日訪問してもらうなど、徐々に事業所に馴染めるような工夫をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や菜園作り等を共に行い、職員が知らない知識や技を利用者から教えてもらう場面がある。包丁の使い方や習字の得意な利用者には食事のメニューを書いてもらう等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を、利用者の言葉や表情、行動等から把握し、介護計画に反映させている。本人の希望や意向の把握が困難な場合は、家族から聴き取った生活史等を参考にする等の取り組みを実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や希望を尊重しながら、個別で具体的な介護計画を作成している。全職員参加のケアカンファレンスや意見聴取表により、職員の意見や気づきをその都度介護計画に反映させている。家族へ介護計画を説明し、同意に関する押印をもらっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と密な連携をとり健康管理を行っている。利用者が入院した際には定期的に病院訪問を行い、医療関係者や家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。本人や家族の状況に応じて、通院等は個別に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの受診経過や希望を把握している。希望する医療機関での受診だけでなく、事業所で協力医療機関も確保し、利用者及び家族があらゆる選択肢を可能にできるように支援している。受診時の情報は家族に必ず電話で伝えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所の指針があり家族に説明している。個別の利用者ごとに家族、主治医、全職員で話し合い方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した声かけ、対応がなされている。ミーティングや内部研修で個人の尊厳・プライバシー保護については話し合い、対応を徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆるやかな1日の流れはあるが、一人ひとりの状態や気持ちに配慮しながら柔軟に対応している。レクリエーションやドライブ等も本人の希望を尊重しながら個別に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に準備や片付けを行っている。職員は利用者と同じ内容の食事を同じテーブルで食べながら、利用者と会話し、声かけ・介助を行い、利用者が楽しんで食事ができるようにきめ細かな配慮を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望にあわせて柔軟に対応している。入浴拒否する利用者に対しては、対応する職員を変えたり、時間をずらすなどの工夫をして入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、調理、菜園の水遣り、習字、裁縫等、楽しみごとも含めて一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や食材の買い物を行っている。定期的に誕生会の外食やドライブ等の企画も実施している。また利用者や家族等から買い物等の要望があれば、その都度、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族全員の意向により立地条件からやむなく玄関には施錠している。玄関の施錠に至った経過については家族会の議事録に記載している。全家族から同意を得ている。庭への出入り口は施錠していない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年に2回、避難訓練を行っている。非常用食料や備品は準備している。避難訓練を実施する際、町内会長や隣接するコンビニ等に協力を依頼している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養摂取量及び水分摂取量を、利用者ごとに記録して把握している。栄養士がカロリー計算を行い、利用者の嗜好調査も実施している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者や職員が作成した絵や飾り物で彩り、ゆったりしたソファ等を配置して季節感あふれる居心地のよい雰囲気である。光の強さ等はカーテンで調節し、音の大きさにも配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者の使い慣れた小筆筒、テレビ、鏡台、仏壇等を持ち込み、思い出の品や写真や人形等が飾られている。利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。